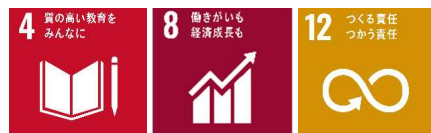


(別添)

2020年8月27日
NITE (ナイト)
独立行政法人製品評価技術基盤機構
中 部 支 所

News Release



おうちキャンプを楽しく安全に ～使い方・捨て方・選び方～ ～ 東海4県版 ～

8月も下旬となり秋が近づいてきました。近年はキャンプが人気を博しています。特に今年は新型コロナウイルスにより、自宅で過ごしながら楽しむ工夫として、屋内やベランダなどでキャンプ気分を味わう”おうちキャンプ”が注目されています。しかしキャンプに使用される製品（以下、キャンプ用品という）の取り扱いを間違えると火災や重篤なけがを負うおそれがあります。

NITE (ナイト) が収集したキャンプ用品^{※1}の事故情報^{※2}は、東海地方4県（静岡県、愛知県、岐阜県及び三重県）では、2015年度～2019年度までの5年間に合計18件^{※3}あり、被害状況は死亡1件（6%）、重傷1件（6%）、軽傷6件（33%）、拡大被害6件（33%）、製品破損4件（22%）となっています。そのうち16件（89%）が火災に至っています。

また、カセットボンベなどのガスカートリッジを使用する際は廃棄方法に注意をしてください。中にガスが残ったまま廃棄すると、ごみ収集車やごみ処理場などで火災が発生するおそれがあります。

その他、リコール対象製品による事故も発生しているため、お持ちの製品がリコール対象かどうかを確認してください。

- (※1) キャンプの際に使用される機会の多い製品（カートリッジガスこんろ、ガストーチ、携帯発電機など）を対象としている。
- (※2) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故（ヒヤリハット情報（被害なし）を含む）。
- (※3) 2020年7月15日現在、重複、対象外情報を除いた事故発生件数。

1. キャンプ用品の製品事故の発生状況

(1) 東海 4 県の年度別 事故発生件数

表 1 にキャンプ用品^{※1} の製品事故の「県別」及び「年度別」の事故発生件数^{※3} を示します。

表 1 キャンプ用品^{※1} の「県別」及び「年度別」の事故発生件数（単位：件）^{※4}

年度	静岡県	愛知県	岐阜県	三重県	総計
2015 年度	0	2 (2)	0	0	2 (2)
2016 年度	0	0	2 (2)	1 (1)	3 (3)
2017 年度	1	4 (3)	0	0	5 (3)
2018 年度	2 (2)	1 (1)	0	0	3 (3)
2019 年度	1 (1)	4 (4)			5 (5)
合計	4 (3)	11 (10)	2 (2)	1 (1)	18 (16)

(※4) () は火災件数。

(2) 東海 4 県の被害状況別 事故発生件数

表 2 にキャンプ用品^{※1} の製品事故の「県別」及び「被害状況別^{※5}」の事故発生件数^{※3} を示します。

表 2 キャンプ用品^{※1} の「県別」及び「被害状況別^{※5}」の事故発生件数（単位：件）^{※4}

被害状況 ^{※5}		静岡県	愛知県	岐阜県	三重県	合計
人的被害	死亡	0	1 (1)	0	0	1 (1)
	重傷	0	1 (1)	0	0	1 (1)
	軽傷	2 (1)	1 (1)	2 (2)	1 (1)	6 (5)
物的被害	拡大被害	1 (1)	5 (5)	0	0	6 (6)
	製品破損	1 (1)	3 (2)	0	0	4 (3)
合計		4 (3)	11 (10)	2 (2)	1 (1)	18 (16)

(※5) 人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。製品本体のみの被害（製品破損）にとどまらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

(3) 東海4県のキャンプ用品の年度別 事故発生件数

図1にキャンプ用品^{※1}の製品事故の「年度別」事故発生件数^{※3}を示します。

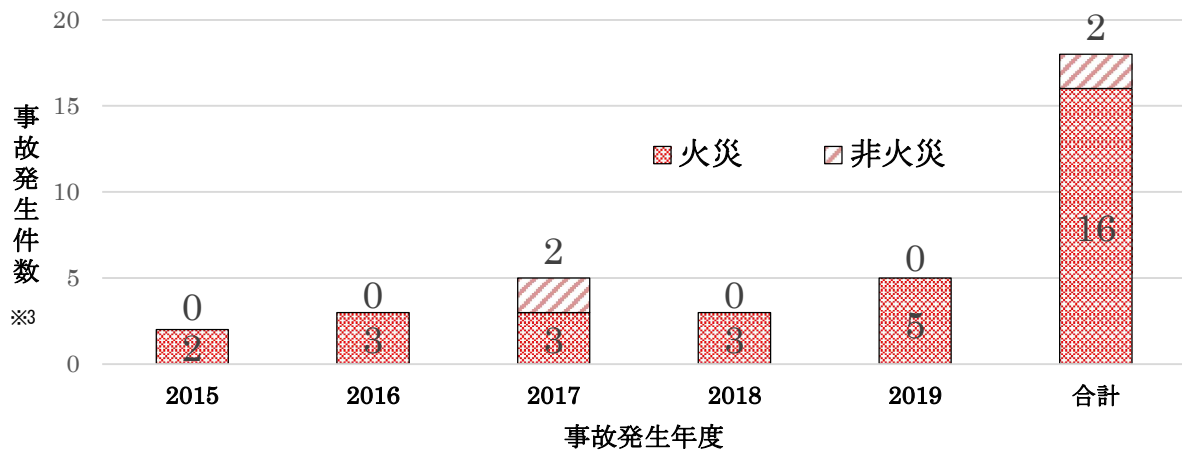


図1 年度別の事故発生件数 ^{※3}

(3) 東海4県のキャンプ用品の製品別 事故発生件数

2015年度から2019年度までのキャンプ用品^{※1}の事故 18 件について、図2に「製品別」の事故発生件数^{※3}を示します。キャンプ用品^{※1}の事故はカートリッジガスこんろ及びガストーチの事故が多く発生しています。

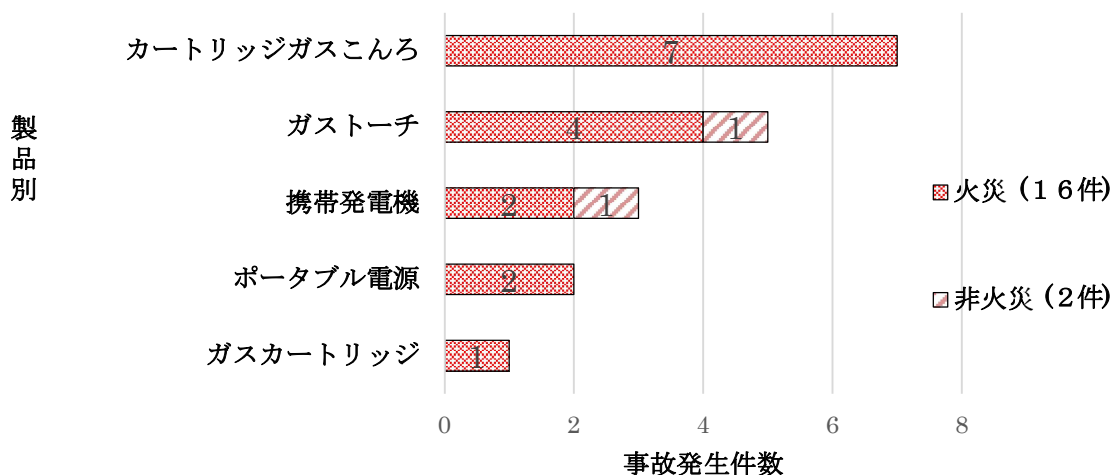


図2 製品別の事故発生件数 ^{※3}

(4) 東海4県のキャンプ用品の製品別 人的被害事象別 人数

2015年度から2019年度までのキャンプ用品※1の事故 18 件のうち人的被害のあった 8 件について、図 3 に「製品別」及び「人的被害事象別」の人数を示します。キャンプ用品※1の事故はカートリッジガスこんろでは、死亡や重傷を負う事故が発生しています。

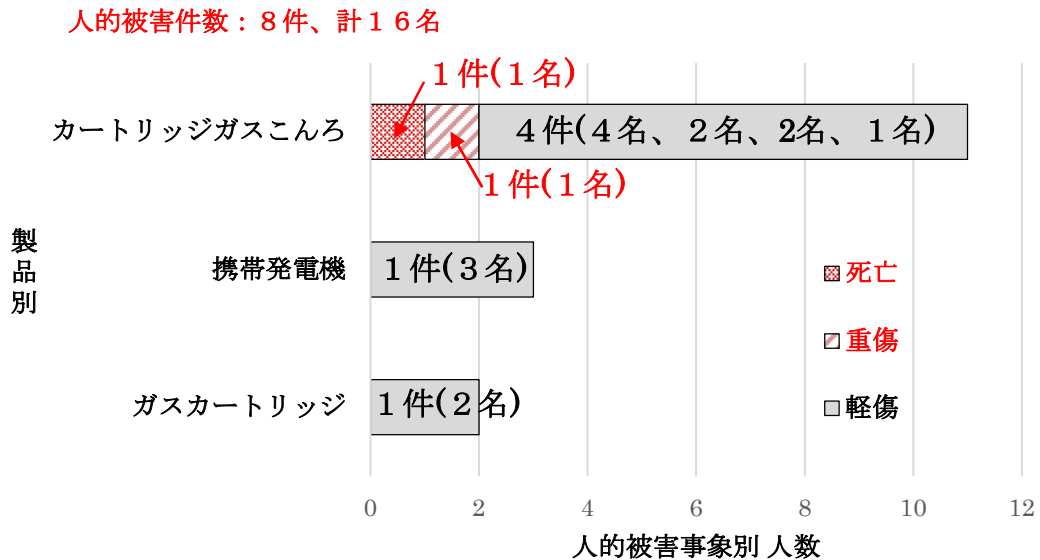


図3 製品別の人的被害事象別 人数

2. キャンプ用品の製品事故の事故事例

(1) 携帯発電機

換気が不十分であったため一酸化炭素中毒

2017年11月（静岡県、40歳代・男性、軽傷）

【事故内容】

工事現場で携帯発電機を使用中。一酸化炭素中毒で3名が軽傷を負った。

【事故原因】

携帯発電機を換気が十分に行えない困まれた作業空間で使用したため、携帯発電機の排気ガスによって一酸化炭素中毒になったものと推定される。

なお、本体及び取扱説明書には、「排気ガスは一酸化炭素等の有害成分を含んでいる。室内、トンネル等の換気の悪場所、遮へい物で風通しの悪い場所等の排気ガスがこもる場所で使用しない。」旨、記載されている。

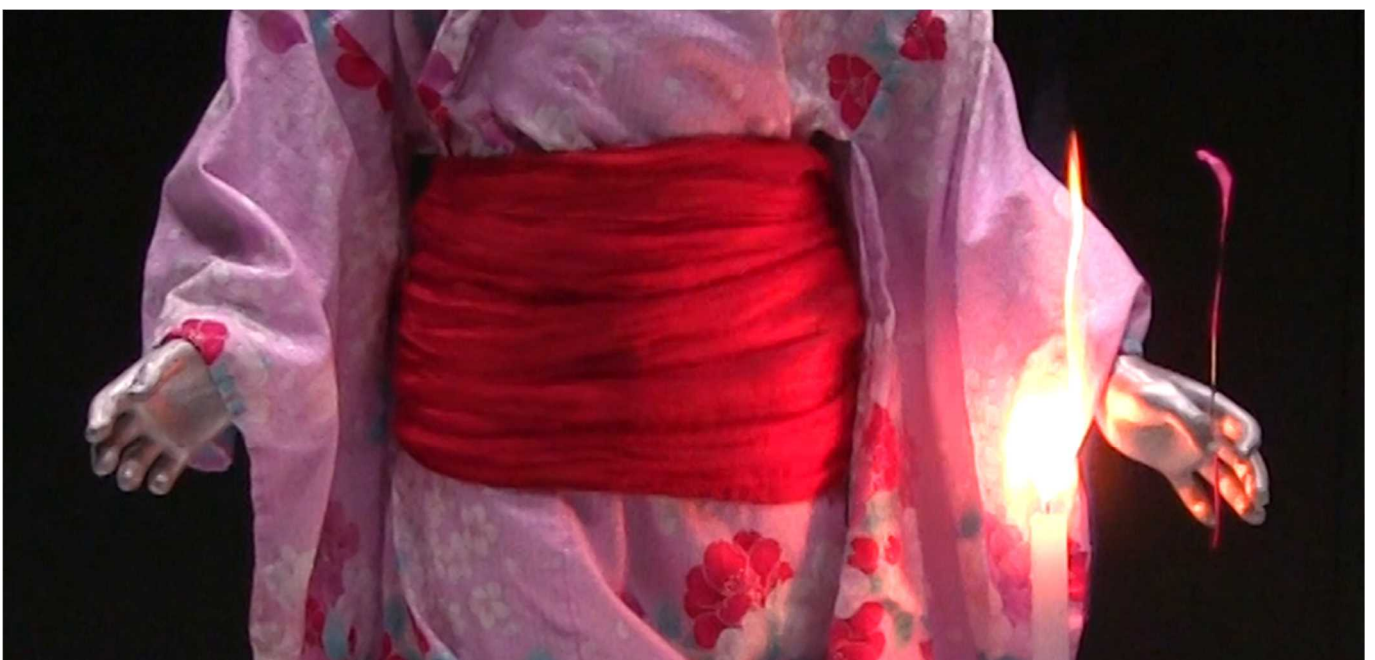
3. キャンプ用品の製品事故の実験映像等について

キャンプ用品^{※1}の製品事故の実験映像及び静止画をご希望の場合は、下記のお問い合わせ先までご連絡ください。

なお、映像をご使用の際、クレジットは「NITE（ナイト）・中部支所」としてください。



静止画例1 ガストーチ



静止画例2 消毒液：火気に近づけて引火

以上

(本件に関するお問い合わせ先)

〒460-0001 名古屋市中区三の丸2-5-1 名古屋合同庁舎第 2 号館
独立行政法人製品評価技術基盤機構 中部支所
支所長 宮川 七重

担当者：横田 勝、横山

電話：052-951-1933、FAX：052-951-3902、携帯：080-3736-7515